※学識経験者の意見等

○学校と博物館との多様な連携事業は今後も継続して取り組むとともに、各教室で夏休みなどの自由研究と結びついた博物館利用の事例紹介など、子どもたちに適度な課題性を持たせて、まずは実質的に博物館を自主的に利用する体験を持たせる指導などに努めていただきたい。
○博物館の役割や動向などを広く学校関係者に認知してもらうことが重要である。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○学校との連携事業は今後も継続して取り組むとともに、自由研究等についても支援・相談を引き続き行いたい。また9企画ある夏休み行事の実施により、積極的に博物館を知る機会を提供していきたい。
○学校関係者に対しては、毎月の行事や夏休み行事について案内をしていきたい。また教員研修への派遣や事業支援の案内を行っていきたい。

No. 18	事業名	美術館展覧会の充実

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5：社会教育施設による学習支援の推進
掲載編	社会教育編
関連目標	目標5：図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(14)：美術館活動の充実
担当課	美術館運営課

2. 事業の概要

国内外の近代・現代美術を中心とした展覧会、多数の所蔵作品の紹介、および集客効果の高い企画展など、幅広いジャンルを対象とした展覧会を開催することで、多くの人々に優れた美術作品と出会い、親しみ、感動を得る場を提供します。

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
企画展	計画	年6回開催	年6回開催	年6回開催	年6回開催
	実績	年6回開催	年6回開催	—	—
所蔵品展および谷内六郎館収蔵作品の展示	計画	年4回開催	年4回開催	年4回開催	年4回開催
	実績	年4回開催	年4回開催	—	—

4. 実施内容（実績）および効果

○企画展では、多くの人に親しみをもたれるテーマ展、図書館と連携した絵本原画展、サブカルチャーを扱った「ウルトラマン創世紀展」、横須賀製鉄所（造船所）創設150周年を記念した浮世絵展、地域ゆかりの現代作家展を開催し、多くの方に優れた美術に触れる機会を提供することができた。
○所蔵品展は年4回開催し、所蔵する作品をテーマをたてて紹介した。また会期ごとに本市ゆかりの作家などを対象とした特集展示を行った。また谷内六郎館も同様に年4回開催した。NHK日曜美術館40周年記念キャンペーン連動企画として、NHKの映像を会期中モニターで流した。
○笠間日動美術館で開催した「熊谷守一・朝井閑右衛門展」に、当館の重要なコレクションである朝井閑右衛門作品を多数貸し出し、当館の所蔵品を広く紹介した。
○観覧者数は、開館年度を除き最も多く、年間観覧者数11万人を超えた。

5. 課題

○アンケートの結果を見てみると、作品に対する満足度が80%を超えるなど、高い数値である一方で、「配置・見やすさ」「解説」について改善の余地があると考えられる。
○展覧会は滞りなく開催し、様々な広報を行っているが所蔵品展や谷内六郎館についてまだ知らない方もいると考えられる。

6. 課題に対する今後の改善策

○作品に解説パネルを付ける、会期中にギャラリートークを行うことは定着してきたが、さらにその解説の文字の見やすさ、読みやすさにさらに工夫を凝らしたり、部屋の照度にも気を配っていきたい。
○所蔵品展、谷内六郎館については、企画展同様に年間スケジュール、ホームページ、twitter、Facebookなどで情報提供をしていく他、2017年の開館10周年を機に行う、コレクションの市民投票などを行い、作品の認知度を高め周知していく。
○さらに注意深く細やかに宣伝をしていき、当館の所蔵品について周知を行っていきたい。

※学識経験者の意見等

○全国各地の美術館で魅力的な企画展が多様に開催されている。市民目線とともに、観光、日本文化などグローバルな視点から外国人の来館者も呼び込める企画など、柔軟な発想に努めていただきたい。
○美術館の展示内容について何がよいのか、多様な意見などが求められる。美術といっても幅広いので計画の細かい展示内容を市民に知らせて、美術館の存在価値を理解してもらう必要がある。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○外国人の来館者を意識するということは、一つの大きな課題であると認識している。現状、外国人がどれだけ来館しているかを調査し、把握すると同時に、館内表示や展覧会告知のホームページ、キャプションの外国語表記、またそれらの広報の仕方について、状況を見極めつつ取り組んでいきたい。
○展覧会をはじめとする美術館活動については、来館者アンケートによってご意見をいただいたり、また、年3回開催する美術館運営評価委員会では、様々な立場の方からの意見をいただくほか、運営の評価や事業計画を公表している。今後も引き続き、いただいたご意見を参考とし、美術館活動に反映させていく。

No. 19	事業名	美術館教育普及活動の推進

1. 基礎情報

対応する重点課題	重点課題5:社会教育施設による学習支援の推進
掲載編	社会教育編
関連目標	目標5:図書館・博物館・美術館の活動を充実させます
関連施策	施策(14):美術館活動の充実
担当課	美術館運営課

2. 事業の概要

美術への理解を深め、美術館に対して親しみを感じられるように美術館活動基本方針の5つの柱「知的好奇心の育成と充足」「福祉活動の展開」「学校との連携」「市民との協働」「子どもたちへの美術館教育」に基づく教育普及活動を行います。特に、学校等と連携して子どもたちの鑑賞教育を中心とした教育普及事業を充実させます。

3. 行動計画

項目		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
美術館活動の基本方針に基づくワークショップ、講演会など	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
学校との連携による教育普及事業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—

4. 実施内容(実績)および効果

○美術館活動の基本方針である5つの柱に基づき各事業を実施した。事前申込制の行事は概ね定員より多くの応募があり、様々なプログラムに多くの方が参加され好評であった。

柱1「知的好奇心の育成と充実」では、企画展をより深く理解するための講演会や学芸員の作品解説(ギャラリートーク)、ワークショップ(WS)を行った。展覧会関係の事業としては、講演会のほか、「浮世絵展」において制作実演とWSを兼ねた新しいプログラムを試み、好評を得た。また、例年、人気の高い大人向けWSでは、同内容で実施回数を増やし、合計4回の「ステンドグラスのオーナメント作り」を開催して、より多くの参加者に創作の場を提供することができた。

柱2「福祉活動の充実」では、海外の美術館・博物館での先行事例を紹介する「福祉講演会」、障害者と健常者がともに美術に親しむことのできるWS、障害児者を対象に創作活動を行うWSなどを例年通り開催した。特に、平成27年度のWSにおいては、視覚障害者と健常者が美術鑑賞を通して同じプログラムを楽しんだり、聴覚障害者や視覚障害者とともに「音」や人形を用いて感情を表現する活動を行ったりという、貴重な経験ができた。

柱3「学校との連携」では、市立小学校6年生全員が来館する「小学生美術鑑賞会」、夏休みの宿題にも対応した「中学生のための美術鑑賞教室」、平成26年度に各校に配布した教材「アートカード」を使った教員向けの研修、「児童生徒造形作品展」(造形教育研究会主催)などを開催した。「アートカード」については、中学生の作家研究に対応するため、新たな指導案を実践するなど、今後の活用促進に向けた新たな試みも取り入れた。また、平成24年度から取り組んでいる、保育園と連携した未就学児向け鑑賞支援活動においても、アートカードを取り入れたプログラムを試みた。

柱4「市民との協働」では、美術館ボランティアが、恒例となっている年3回(ゴールデンウィーク、夏休み、クリスマス)のイベントを開催したほか、毎週日曜日の所蔵品展ギャラリートーク、小学生美術鑑賞会の受け入れ補助、障害児者対象のWSのサポートなどを行った。美術館では、こうした活動の企画、準備および研修の実施により、ボランティアの活動を支援した。

柱5「子どもたちへの美術館教育」では、企画展ごとの「親子ギャラリーツアー」、未就学児を対象としたワークショップ、親子ワークショップ、夏の野外映画上映会などを例年通り開催した。特に平成27年度は、恒例の野外上映会のほかに、企画展にちなんだ「ウルトラマン」の上映も行い、多くの参加者を得ただけでなく、話題も提供することができた。

5. 課題

○「小学生美術鑑賞会」「児童生徒造形作品展」など、学校連携の基盤となる活動をいっそう発展させていく必要がある。特に子どもたちの鑑賞教育の質を高めるため、「小学生鑑賞会」の事前授業用教材として定着しつつある「アートカード」について、いっそうの活用をはかるとともに、こうした事前授業にあわせた来館プログラムを用意していく必要がある。また、「造形教育研究会」と連携しながら、「児童生徒造形作品展」を今後も継続し発展させていく必要がある。
○未就学児、小学生、中学生に対しては、様々な発達段階や各学年の指導事項と合わせた鑑賞教育の研究を進める必要がある。また、大人に対する鑑賞活動支援など、大人に向けた普及プログラムを充実させていく必要がある。

6. 課題に対する今後の改善策

○特に小中学生に向けた鑑賞教育の充実のため、「アートカード」の普及、発達段階に応じた鑑賞教育プログラムの研究と作成を進める。特に、小学生鑑賞会で用いるワークシートについては、主体的な鑑賞を引き出すことを目的とした内容の検討と改善を進める
○「造形教育研究会」と連携しながら、「児童生徒造形作品展」における展示方法の工夫など、美術館ならではの役割を果たしていく。
○大人向けWSや講演会など、大人向けの活動プログラムを充実させるだけでなく、鑑賞会ボランティアやギャラリートークボランティアが活動をさらに発展させられるよう、必要に応じた組織規模の拡大や、研修プログラム等の充実を図る。

※学識経験者の意見等

○学校教育の場では従来型の鑑賞、描画、造形などの表現行為ばかりでなく、デザイン思考を取り入れた問題解決的な（美術）授業、市民と協働したワークショップが展開されるなど、積極的にアートを重視した教育・授業づくりが行われるようになってきている。今後はますますアートの専門家と学校・教師の協働作業が重要になっていくものと考えられる。
○小・中学生や学校との関わりについて評価できる。その実績を市民にその都度、知らせることも重要である。
○ボランティアの活動について、さらなる事業の充実を期待したい。

※学識経験者の意見等に対する今後の方向性

○美術館と学校との連携の基本となるのは、「鑑賞活動支援」であると認識している。同時に、出前授業や学校ワークショップなど、新しいニーズに応えることも重要である。このような新しい取り組みについては、それぞれの教員と長期的な目的意識を共有しながら、確実な準備手順を踏まえつつ取り組んでいきたい。
○美術館と子どもたちとの関わりを広く知っていただくために、児童生徒造形作品展など、学校や児童生徒の活動と関連のある事業を積極的に活用していきたい。
○ボランティア活動の充実は、活動回数だけでなく、ボランティアの方々の精神的な満足度も重要である。その点を考慮しながら、ボランティア組織がより活力あるものとなるよう、活動をサポートしていきたい。

◆ 目標・施策に基づく関連事業

○　点検・評価報告書の見方（関連事業）

２－１　目標・施策に基づく関連事業（学校教育編）

２－２　目標・施策に基づく関連事業（社会教育編）

２－３　目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）

○点検・評価報告書の見方（関連事業）

教育振興基本計画は全体を学校教育編・社会教育編・スポーツ編と3編に分かれており、各編ごとに区切って関連する事業すべてを点検・評価の対象としています。

2－3 目標・施策に基づく関連事業（スポーツ編）

スポーツ編の目標・施策に基づく関連事業について各事業の行動計画に対する実績を測ります。

目標3：競技者の活動を支援するとともにスポーツ愛好者の裾野を拡大します

各目標の実現に向けての施策ごとに関連する事業を並べています。

各編ごとに、第2期実施計画期間である4年間（平成26年度～平成29年度）の目標を定めています。

施策（9）ホームタウンチームなどとの連携強化

事業名と担当課を記載しています。「○○事業」という表記の他に「○○の推進」や「○○の検討」などの表記をしている場合もあります。また、重点課題に対応する事業については、※にその旨を記載しています。

【関連事業】

事業名	よこすかドリーム・スポーツプロジェクト推進事業【スポーツ課】
概要	本市のホームタウンチームである、横浜ＤｅＮＡベイスターズ、横浜Ｆ・マリノス、東芝ブレイブサンダース神奈川などのトップレベルのスポーツ選手・コーチ達と直接授業で共に体を動かし触れ合うことで、子どもに夢と感動を与え、スポーツへの関心を高めます。

行動計画		第2期実施計画			
		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
学校訪問授業	計画	実施	実施	実施	実施
	実績	実施	実施	—	—
スポーツイベントへの参画	計画	依頼	依頼	依頼	依頼
	実績	依頼	依頼	—	—

（計画と実績が異なる場合の理由）

平成27年度計画に対しての、平成27年度の実績を記入しています。(実績と計画が異なる場合は、下記の枠にその理由を記載しています。)

外部の学識経験者からいただいたご意見を記載しています。

【本事業に対して学識経験者からいただいたご意見】
○プロスポーツ選手の社会貢献として、学校や社会福祉施設を訪問して子どもに夢と感動を与えスポーツへの関心を高めている。トップレベルにある選手・コーチに直接触れ合うことは教育的効果も大きいと考える。

【ご意見に対しての今後の方向性】
○本事業はチームや本市にとって大変有意義な部分が大きい。引き続き事業を継続できるよう各チームに働きかけていきたい。

外部の学識経験者からいただいたご意見に対する担当各課の今後の方向性を記載しています。